

(様式1)

令和2年度 目標達成計画

園所名 えびす認定こども園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組  
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<b>教育・保育目標</b> ・心も身体もたくましく元気な子ども ・仲間とともに育つ子ども ・豊かな感性を持つ子ども ・のびのびと自己を表現する子ども
---

【目標達成計画】					
項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	・新型コロナウイルス感染予防対策について	・全職員が感染症対策に関する共通認識を深め、組織的に取り組んでいく。また乳幼児期は抵抗力が弱く、身体の機能が未熟であるという特性を踏まえ、感染症に対する正しい知識や情報に基づき、適切に対処しその責任を果たそうとする。	・マニュアルの理解及び共通認識できるように、読み合わせ確認の時間を設けた。 ・感染対策が不十分な点は、その都度注意し、改善している。 ・個別、少人数の活動を増やし、密を防げるようにした。	・園の具体的なマニュアルで、職員がより共通理解でき、感染症対策の適切な対処ができた。また、定期的な意識づけにより統一した方法で実施することができている。 ・個別、少人数制の活動の中から、より細やかな対応によって、子どもの育ちの再発見があったり、自信や可能性を高めることに繋がった。	・「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を園独自に作成し、保育の各場面ごとに行動・対応・留意点等を詳細に記載し、6月に読み合わせを行い、全職員で共通理解している。 子ども同士が距離を取る際は「おにぎり2個分開けよう」と伝える等、具体的に、子どものストレスにならないような伝え方を工夫している。 ・園長・主幹保育教諭が日々の保育の中で都度注意喚起したり、職員会議で知識や情報を共有する等、正しい知識や新しい情報を伝え、職員が統一した方法で感染予防対策を徹底できるよう継続的に取り組んでいる。
良いとこ自慢！	(保育内容) ・5領域における健康分野について、年間を通じて裸足保育を実施するなど、健康の増進・運動能力の向上に努めている。 ・ドキュメンテーションを充実させることで保護者に保育内容や子どもの育ちを伝え、共に成長を喜びあえるようにしている。	・子どもが自らの意思で、生活や遊びを進められるよう、活動の充実を図り、様々な運動の機会や用具の提供、時間・空間的な環境の確保を行う。 日々の様子がわかりやすいよう、写真を多用し、子どもの成長につながる様子を具体的に表現する。	・室内は一年を通して、戸外は6月から10月の期間、裸足保育を行っている。 ・様々な種類の運動遊具、道具、用具を整え、いつでも使用できるようにしている。 ・子どもたちの活動の様子を、できる限り具体的にドキュメンテーションやホームページを通して伝え、子どもの育ちを共有できるようにしている。	・運動遊びに活発に取り組むことで、健康な身体づくりを行うことができた。取り組みを通して、子ども同士の関わりが深まり、コミュニケーションの輪が広がった。 ・子どもの活動や育ちを具体的に伝えることで、保護者とその成長の喜びを共有したり、保護者との関係もより良くなった。	・年間を通じて「裸足保育」を行うなど、保育所や幼稚園における教育内容である「5領域」における「健康」領域を熱心に進めている。また子どもたちが伸び伸びと遊べるように様々な遊具、用具が用意され、時間的空間的な環境の設定が工夫されている。大勢の子どもたちが園庭で活発に遊ぶ中で、様々な交流が図られている。
	(管理・運営面) ・老若男女幅広い保育者が在籍しており、保育者どうしが互いに知恵を出し合い、相談し合うことができ、保育力を高め合うことのできる機会が多い環境にある。 ・正しい情報のキャッチに努め、保護者に伝達している。 ・園独自のコロナ感染対策マニュアルを作成している。	・教育保育内容についての相談や悩みごとの解消につなげるために必要な時間の確保や、機会の提供、関係づくりを行っている。 ・関係機関からの情報を精査し、できる限り早く保護者に伝達する。 ・マニュアルに沿った対策を確実に行う。	・シフトのペアや行事担当のペアをベテランと若手、年長担当と年少担当などにし、クラス担任以外のとの関わりを持てるようにしている。 ・メールシステムを活用し、迅速に伝達している。 ・マニュアルに沿いつつ、その時々状況に合わせ、対策の仕方を改善している。	・ペアの工夫をすることで、担任以外との関わりを深めることができ、悩みを相談したり、情報交換をすることができた。 ・早く正しく情報を伝えることにより、迅速に対策への意識づけができた。また、安心感にもつながっていった。 ・新型コロナウイルスだけでなく、様々な感染症予防に繋がり、例年流行する感染症を防ぐことができていた。	・入職4年以内の若手職員向けの園内研修を実施し、園長・主幹保育教諭が現状に即した助言を行ったり、職員から質問・相談しやすい機会作りを行っている。シフトのペア・行事担当ペアを、クラス担任以外の職員で設定し、意見・情報交換することで、相互理解や互いの学び合いの機会となっている。また、定期的にペアを変えることで、さらに取り組みが広がっている。 ・子どもの様子や園の取り組み等を、園だより・各クラスのドキュメンテーション・連絡帳等を使って保護者に伝達している。関係機関からの情報等、特に迅速に伝える必要のある情報については、メールシステムを活用できる環境を整備している。 ・新型コロナウイルス感染対策をマニュアルに沿って実施する中で、職員から気づきや意見が出た際は、コロナ対策委員会で検討している。ハイター消毒専用の蓋つきバケツの購入、置き場や保管方法等、改善に取り組み、職員会議で変更を共有している。
ここを改善！	(保育内容) ・教育保育目標の達成に向かうための具体的なビジョンや方法についてのイメージが、各保育者によって相違がある。共通理解すべき内容が共有されていなかったり、理解に差があるなど曖昧な点がある。	・目指す保育のビジョンを、実際に園見学や講師等からの助言、研修を受ける中で、共通の認識を持てるようにする。	・職員会議、園内研修を、若手とベテランに分け、それぞれに即した内容にし、特に若手の職員の発言の機会を設け、自分の意見を主張できる場を作っている。	・若手職員の発言の場を作ることで、保育について語り合い、その思いを共有しながら保育力の向上ができた。 ・お互いを認め合うことで、自信を持って行動し、保育に向かうことができた。	・新型コロナウイルス感染対策の独自のマニュアルを作成し、全職員で共通認識を図りながら、組織的に取り組み、適切に対処されている。また、本園の特性として老若男女、職員構成が多様であり、その利点を生かし、お互いに相談し高めあう機会や環境づくりを進めており、そのことが子どもたちへの保育へ生かされている。 ・業務のシフトや行事の担当者をベテランと若手、年長担当と年少担当など、意図的にペアリングすることで、互いに話し合い、相談し合う場を増やしている。こうして、多様な視点から子どもたちを見る機会を増やし、保育力の向上を図っている。また、ドキュメンテーションやHPを充実させ、子どもたちの取り組みや成長を感じられるよう尽力している。
	(管理・運営面) ・感染症対策にかける時間が増え、個々の仕事量の負担が大きくなっている。 保護者参加の行事のあり方についての課題。	・対策にかける時間、保育準備など、時間を効率的に使えるよう、仕事内容を精査していく必要がある。 ・マニュアルを実情にあった形になるよう、定期的に見直ししていく必要がある。 ・予防策を取りながら、可能な限り保護者が参加できるような行事のあり方を考えていく。また、参加型でない、新しい方法で保育を伝えていけるようにする。	・指導計画は、園独自のテンプレートを使用し、簡単な入力作業で完成できるようにしている。 ・運動会は、5歳児のみ2日間に分けて保護者参観の形で行った。他年齢のクラスは、運動遊びの様子や日々の生活の様子を保護者限定の動画配信を行った。その他行事も、参加人数を制限したり、会場を大きな場所にするなど、感染予防を講じながら工夫して行った。	・書類作成の時間短縮を図り、他の仕事や作業に費やす時間が増えた。 ・感染症対策の工夫を講じながら、できる限りの保護者参加行事を行った。子どもの育ちを実際に観て頂き、その成長を喜び合い、共有することで安心・信頼へと繋がった。 ・行事や遊びの見直しにより、子どもたちが主体的に活動する機会や環境を整えることができた。	・新型コロナウイルス感染予防対策のための業務に対応するため、業務の効率化に向け検討と見直しを行い、下記の見直しが実施されている。 ・現状に即したマニュアルの見直し。 ・ヒヤリハット書式の工夫。 ・行き先別のお散歩マップの作成。 ・指導計画と日誌の書式の工夫。等 ・5歳児の運動会を、「運動会ごっこ」として、2日に分ける、座席を抽選にする等、感染予防策を工夫しながら、保護者参加の行事として実施できた。音楽会・生活発表会・卒園式についても、保護者参加の実施に向け、会場や方法を検討している。 また、5歳児以外のクラスについては、運動遊びや日々の保育の様子を動画配信で伝え、参加型でない保護者への新しい伝え方の工夫も行った。